

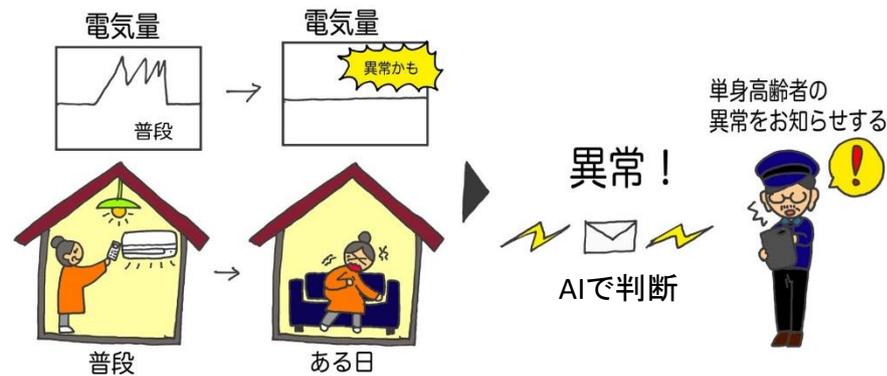
都営住宅を活用した単身高齢者の 見守りシステム構築・実証プロジェクト

3,100 万円程度
(事業期間 2年間)

都営住宅の単身高齢者の見守りシステムの構築をモデル実施。スマートメータの電気量データから在／不在、異常値、エアコン利用有無をAI（機械学習）で判断する。孤独死が増加している単身高齢者の巡回管理の見守りをサポート強化する。



高齢者全員を下の世代の手で
見守るには限界がある



電気使用量による見守りサービスのイメージ
(効果: 異常時の早期発見、熱中症予防)

<課題>

- 都営住宅の**高齢化・単身化**
- **低所得者**世帯の割合大
- **孤独死**の増加
- 支える側の**人手不足**

<本システムの特徴>

- 基本的に**無料**
- **プライバシー**が確保される
- **少人数**で見守れる
- **都内全域**に普及出来る

事業内容の詳細

○ 高齢者176名の意見で訪問サービス(31%)に次いで利用したい(24%)

- ・ 今回の単身高齢者見守りシステムの特徴は、スマートメータの電気量データを利用するため追加コストが掛からず、さらに都内全世帯をカバー出来る、またカメラ設置などに比べて間接的に監視するためプライバシーに配慮出来る点である。
- ・ 2018年度に大学による都内（西東京市）高齢者176名へのアンケート結果から、訪問サービス（31%）に次いで2番目（24%）に利用したい方式であった。訪問サービスは人員確保の問題があり、本システムとの併用が必要だと言える。

事業実施による効果

- 都営住宅の巡回管理者による見守りのサポート強化を図ることをモデル実証することで、都内全域の単身高齢者の見守りシステムとして普及を促進することが出来る。